

12. 皮膚の疾患

文献

岩元英輔、村瀬健太郎、谷之口真知子、ほか。褥瘡における通常治療・ケアと鍼通電療法の併用効果 局所鍼通電療法と遠隔鍼通電療法の比較. 全日本鍼灸学会雑誌 2013; 63(3): 176-185. 医中誌 Web ID: 2013379242

1. 目的

褥瘡に対する鍼通電療法の有効性評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

3. セッティング

三州会大勝病院、鹿児島、日本

4. 参加者

臥床傾向にある脳梗塞患者ならびに神経難病疾患患者で、慢性期褥瘡を併発した 56 名

5. 介入

Arm 1: 対照群 19 名 (男性 10 名、女性 9 名、平均年齢 78.0±10.7 歳)。通常治療・ケアのみ行った。湿潤環境保持、看護ケア、薬物療法、デブリードマンなど。

Arm 2: 局所 EA 群 19 名 (男性 8 名、女性 11 名、平均年齢 77.0±10.8 歳)。通常ケアと局所 EA を併用。0.2×40mm のステンレス鍼を用いて創部周囲の正常皮膚部位 4 カ所 (0.5-1.0cm 程度離れた部位) に 10-30mm の深さで刺入し、双極性パルス波で 3Hz、10 分間通電。

Arm 3: 遠隔 EA 群 18 名 (男性 9 名、女性 9 名、平均年齢 78.4±9.4 歳)。通常ケアと遠隔 EA を併用。0.2×40mm のステンレス鍼を用いて両側の委中穴 (BL-40) と承山穴 (BL-57) に約 10mm の深さで刺入し、双極性パルス波で 3Hz、10 分間通電。

6. 主なアウトカム評価項目

DESIGN-R 合計点、創サイズ。

7. 主な結果

DESIGN-R 経時的変化は対照群と遠隔 EA 群で 6 週後に、局所 EA 群で 2 週後以降に有意な低値が認められたが (P<0.05)、群間比較では差がみられなかった。創サイズ経時的変化は対照群で 4 週後以降、局所 EA 群で 2 週後以降、遠隔 EA 群で 6 週後に有意な低値が認められたが (P<0.05)、群間比較では差がみられなかった。DESIGN-R 変化率の群間比較では 4 週後に対照群に比べ局所 EA 群で有意に低値を示し (P<0.05)、6 週後に対照群および遠隔 EA 群に比べ局所 EA 群が有意に低値を示した (P<0.01)。創サイズ変化率の群間比較では 4 週後に対照群に比べ局所 EA 群で有意に低値を示し (P<0.05)、6 週後に対照群・遠隔 EA 群に比べ局所 EA 群が有意に低値を示した (P<0.05)。

8. 結論

通常治療と局所鍼通電の併用は、褥瘡の治癒を促進させる。

9. 鍼灸医学的言及

褥瘡への局所鍼通電刺激による皮膚温上昇について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

同著者の JA1414 (他誌原著論文) と比較すると、研究デザイン、被験者数は異なるものの、年齢、身長、体重、一部の血液検査結果などが、平均値と SD が小数点以下まで一致している。さらに、引用文献としても明示されていない。これらの疑問点が解消されれば、エビデンスとして認めることができる。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19